

# 北区のまちのニュースレター



## かみしめて楽しむ「文化のつどい」

11/12(土)、13(日)大淀コミュニティセンターで「文化のつどい」が開催されます。昨年、一昨年は新型コロナの影響で中止になってしまいましたので、3年ぶりの開催です。この会館をホームグラウンドに日々、お稽古に励まれている「お茶」「生花」「水彩画」「和太鼓」の発表会のお楽しみの



他、今年は趣向を凝らした出し物を計画しています。

その企画は〈発見!うちのまち〉と題するもので、大阪大学総合学術博物館と共催します。

「大真面目に」「歴史を探访しつつ」「理屈っぽくなく」「どなたでも気軽におおさかのまちの来歴を楽しみ」「歴史から未来をかみしめる」という企画です。

その全容は、同博物館の橋爪節也教授、波瀬山祥子氏の監修を得て、江戸時代末期の大坂をとらえた「浪花百景」を、A0サイズに超拡大し高精細そのままにタペストリーにして展示……さながら幕末をお散歩しながら「私たちが暮らす大阪のまちとの対比を楽しもう!」とする企画です。

名付けて〈発見!うちのまち〉

今年は「浪花百景」(全102点)のうちから40景をタペストリーにして展示します。また、11/13(日)午後には、橋爪教授、波瀬山氏とともに、40景のタペストリーをくぐり抜けるようにしながら、ちょっとした「擬似的『まち歩き』体験」も計画しています。

本邦初の企画ですから、私たちもちょっと不安です。でも、大淀コミュニティセンター・1階ホールでの『まち歩き』ですから天候や足元の不安はありません。老若

男女、車イスの方にも気軽に『まち歩き』体験をお楽しみいただけるのではないかと、ワクワクしています。

橋爪節也教授は、「その道中の陽気なこと!」と、いま密かに『まち歩き』ルートの探索?に余念がありません。

11/12(土)、13(日)大淀コミュニティセンター「文化のつどい」でお会いいたしましょう!



〈発見!うちのまち〉浪花百景タペストリー展では、13(日)の13時と14時半からの2回、大阪大学総合学術博物館の協力で全40景を巡る「道中タペストリー解説」も同時開催します(参加無料)。

### ■北区 文化のつどい **入場無料**

日時: 令和4年11月12日(土)・13日(日)

午前9時30分～午後4時30分

場所: 大淀コミュニティセンターホール

大阪市北区本庄東3丁目8番2号

TEL 06-6372-0213

内容: 舞台発表(フラダンス・詩吟・和太鼓演奏・民舞・新舞踊)

作品展示(華道・手編み・水彩画・選挙推進ポスターなど)

【特別展】〈発見!うちのまち〉浪花百景タペストリー展

協力・大阪大学総合学術博物館

お茶席(有料200円)

主催: (一財)大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

## 聴覚を失って、伝えたい 努力できる贅沢さ！！

大淀コミュニティセンター講習会 講師 日向 由美子

それは突然でした。

コロナ禍、急に仕事がストップされ、再開後は人数を制限し、レッスンの回数を4倍にしたり、飲まず食わずで踊りっぱなしなど、普通ではなくなったしわ寄せは、商売道具である私の身体を直撃した!!

ある時、電話から何も聞こえなくなり、病院に行くのと即入院の宣告。2020～2021年末年始の2週間の入院治療にも関わらず、私は左耳の聴覚を失ってしまったのです。



私の仕事は「健康にアンチエイジングを目指す」ダンスインストラクターです。時代を反映した完璧なうたい文句は、「一生歩ける、怪我をしない健康で美しい身体づくり」「骨盤矯正・クビレ作り・美尻・バストUP・体幹力GET!!」「心が元気になる素敵な音とダンスで楽しく汗を流しましょう」。退院後はこの調子の良いキャッチフレーズをもとに、各課題で更に力説するようになりました。なぜなら、改めて健康の大切さを自覚でき、より現実的な感覚でご指導できる自信が出来たからです。

私は大淀コミュニティセンターで、毎週火曜日と隔週金曜に午前10時半からラテンリズムの講座を担当させていただいています。受講生の方々は、前向きな志を共にする方々でそれぞれ個々に集まり、ラテンの曲で気持ちよく汗を流し、楽しくダンスをされています。継続することにより、自然と姿勢の改善など見た目が変わったり、自覚の元、若々しく日々進化されてるようです。

たかが一病息災かも知れませんが、失ってしまった私だから、未だ失ってないなら、取り返しがつくのであれば、手に入れたものに向かって努力をしてみるものだと思います。

私は退院後、聴覚を取り戻したくて、あらゆる療法に挑戦し、お金と時間をかけましたが、結果的には現在の医療での限界を知りました。次から次へとめげない自分にワクワクし、期待を持って臨んでいました。その分最終日に医師から下された宣告に初めて涙が出て本気で泣きました。この時に覚えた、可能性に向かって努力が出来るという贅沢さを皆様のダイエットやアンチエイジングの願いに置き換え、全力で伝えたいと思いました。まだまだ間に合う、今すぐ出来る事が皆様には沢山あります!!

こんな私と一緒に大淀コミュニティセンターのラテンリズムを受講してみませんか？ 無料体験もお待ちしております!!

## まちで学ぶ・まちから学ぶ

建築家・ツキイチ屋台女将 岸上 純子

今回も「学ぶ場としてのまちの魅力」について書きたいと思います。

学びの場って、インターネットの普及によってどんどん変化してきていますよね。学びの場の一つとしての学校では、コロナの影響でオンライン授業は当たり前になりましたし、それ以前からもリアルとネットを融合した学びの場を提供する「※N 高・S 高」のような広域通信制高校や、地方と都市を行き来し、双方で教育を受けることができる「デュアルスクール」など、学びたい対象や方法・場所などによってさまざまな選択ができるようになりました。

学校という場に限らず、「知りたい・学びたい」と思えばインターネット上にありとあらゆる情報が溢れていて、知りたい情報だけをピックアップすることも容易になりました。

けれど、N 高・S 高がやはりネット上だけでなく、キャンパスを持ちスクーリングをしていることや、デュアルスクールも都市での学びを残していることからみて、やはり「都市＝まち」でのリアルな体験は学びの場から「外せない」のではないのでしょうか。

じゃあ、まちでの学びの魅力とは？

隣に誰が住んでいるのかも分からない生活になりがちなマチナカ生活。「他者と関わらない」それも一つの都市生活の魅力なのかもしれません。でも、ちょっと話してみたら近所さんが実は有名なアーティストさんだったり、誰もが知っている会社の経営者さんだったり、超人気料理店のシェフだったり、一見難しそうな研究をととても分かりやすく説明してくれる研究者さんだったり。はたまた、生まれた時からその街に住む生き字引のようなおじいちゃんだったり、とにかく海外旅行が好きで外国文化にめちゃくちゃ詳しい人だったり、子育ても家事も楽しくこなすスーパー母ちゃんだったり。

そんな人たちから、芸術の話、経営・経済の話、料理の話、科学の話、まちの歴史、外国の話、家事の秘訣を聞くような学びって、とても魅力的だと私は思います。

ツキイチ屋台をやっているとそんな人たちと出会い、出会いの中で学びが自然と湧いて出てきます。それこそ生きた学び、消費され尽くすことのない魅力です。

みなさんもまずはお隣さんを知るところからはじめてみませんか？

※新しい運営スタイルの通信制高校（私学）。N と S で別々のキャンパスがある。両校で2万人以上の生徒数で(2022年6月現在)、高校では日本一の生徒数といわれている。



# キタ歩き日本旅



鹿児島県  
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大きさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい!』の風情です。SNS万能の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子が「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



早春の仙巖園

鹿児島県大阪事務所・観光物産課の松尾さんを訪ね、鹿児島県の「ものづくり」の歴史についてお話をお聞きしました。

なぜ「ものづくり」かといえば、大阪市北区は今でこそ大阪都心のビジネスと商業文化の中心ですが、天満の造幣局で英国の最新技術を導入し(以下、HP「造幣局の歴史」から抜粋)当時、画期的な洋式設備で貨幣製造を開始(明治4/1871年)したと記され、製造に必要な諸設備もすべて近所で賄ったとも紹介されています。

硫酸、ソーダ、石炭ガス、コークスの原材料系やそれらを効率運用するための電信・電話、さらに事務関連では自製インクや複式簿記の導入。関連産業のガラス工業。文化面では断髪や洋服着用などもいち早く取り入れた地域であったと記述があります。

なるほど! 歴史ある洋服屋、写植や印刷屋、ガラス工業に関連する町工場が数多くあったこと

は、そう遠くない北区の記憶……鹿児島県では、そのような「まちの記憶」を、『近代日本発祥の地』としてビックリするほど未来的に歴史遺産を活用されています。以下、松尾さんのお話しです。

それらは「明治日本の産業革命遺産/製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として、日本各地の産業革命遺産とともにニッポンを代表する世界文化遺産となっています(2015年)。

鹿児島県の構成資産「旧集成館」は、日本最古の工業地帯の跡地です。イギリス人が生活した鹿児島紡績所技師館(通称異人館)や、島津家の大名庭園「仙巖園」の一部を含む広大なエリアで、ゆったり学びながらの観光が出来ます。

とのこと……そういえば……アフターコロナの観光新時代には、歴史という大きなスケールで「地域を楽しむ穏やかな観光」が重要ではないかと注目されているそうです。そのような視点で見ている

と鹿児島県はニッポン観光のトップランナーなのかもしれません。

歴史の佇まいを現代の大阪に感じることは困難ですが、大川沿いや中之島を中心に全国諸般の蔵屋敷があった名残や(土佐堀川・肥後橋など水辺に数多い)、与力・同心という歴史を感じる地名も北区に現存します。

鹿児島県に「穏やかな観光」を学んでみたい……そんなことを大阪駅前第1ビルの鹿児島県大阪事務所で感じた次第です。



旧集成館「旧鹿児島紡績所技師館」(異人館)

写真協力:公益社団法人 鹿児島県観光連盟

# 浪花百景歳時記

大阪大学大学院文学研究科(美術史)

小松亜希子

目に飛び込むのは猛禽類の空中戦、足にねずみを掴んで、何チューこった…!!

「天満市場」歌川国員画

一つの絵で風景画と花鳥画を楽しめる歌川派得意の構図だが、これを英語で言う bird's-eye view (鳥瞰図)。大川には、今もいろいろな鳥が棲息しているの、天神橋付近でバードウォッチングするのもよいかも。

道行ナビゲーター 大阪大学教授 橋爪節也

橋桁が何本連なっているのか、眼下に長大な天神橋が伸びて大川には船が行き交い、向こう岸の天満市場へとたくさんの人が往来しています。手前には高瀬舟や三十石船が、川岸では荷下ろしが行われているようです。画面中央の山は、観音岩で有名な交野山でしょうか。花鳥画と風景画が一つの画面で楽しめる歌川広重お得意の構図を、国員が試みています。

「天満市場」と聞くと、天神橋筋界限にお住まい



の方は北区池田町にある「ぶららてんま」を思い浮かべるかもしれません。市場は大坂の陣以降、京橋にありましたが承応二年(一八六六)に天神橋と天満橋の間に移転、幕府の保護を受けた青物卸売市場でした。昭和六年(一九三二)に大阪市中央卸売市場に吸収されるまで大坂における青物流通の中心地であり、木津・難波・伏見といった近郊から和歌山まで、様々な産地の蔬菜や果物を求める人で賑わいました。

大坂の名所案内記『浪花の賑ひ』(安政二年・一八五五刊行)によると、初春の若菜から年の暮れの大根まで季節の旬の青果が取引され、秋には松茸・栗が、冬の夜市には蜜柑などが並びました。全国の名産を紹介した『日本山海名物図会』(寛政十一年・一七九九刊行)の「天満市側松茸市」には、摂州能勢、勝尾、丹波などから集まった松茸を松明で照らしながら、多くの人々が競りに集まる様子が描かれています。「浪花百景」の空中戦は、旬の青果を巡る仲買人たちの競りの勢いを、鳥たちの姿に託しているのかもしれない。

現在、市場の跡地は桜の名所でもある南天満公園となり、「天満青物市場跡」の石碑が建っています。近くには京都・伏見・大坂間を往来する船頭たちの舟唄が刻まれた「淀川三十石船舟碑」が、対岸には「八軒屋船着場の跡」石碑があり、水運・流通の要所として繁栄していた当時の面影を偲ぶことができます。松茸や栗が旬を迎えたこの時期、松明で煌々と照らされた天満市場を思い浮かべ、江戸時代の食欲の秋を感じてみるのもまた一興です。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27  
☒ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2  
☒ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

編集後記

今号で「突発性難聴」のことを記された大淀コミュニティセンター・ラテンリズムの日向先生に驚きました。私と全く同じだからです。朝起きたら片方の耳が聞こえず→近所の耳鼻科から大病院の耳鼻科・ステロイド治療。その後の経過もまったく同じ。「突発性難聴」はある日突然、しかも治療効果が上がらなかった場合はその後もしんどい日々が続きます。その体験談に勇気が湧きました! ありがとうございます。